

【政治】

9 月 31 日：唐軍書記、肖盛峰市長ら市幹部、烈士記念碑献花式典に出席

唐軍書記、肖盛峰市長ら市幹部は「烈士記念日」である 31 日午前、高新園區にある大連市烈士陵園を訪れ、大連市各界から集まった約 1,200 人の代表らとともに、大連市烈士記念碑献花式典に出席した。当該烈士陵園には異なる歴史時期に国のために犠牲となった約 500 名の烈士が埋葬され、また併設されている大連烈士記念館には 150 名の英雄烈士らの輝かしい業績が展示されている。

(1 日付大連日報 1 面)

9 月 31 日：唐軍書記、肖盛峰市長ら市幹部、大連現代博物館にて抗日戦争勝利 70 周年記念特別展を参観

31 日、大連市烈士陵園で行われた献花式典に出席した後、唐軍書記、肖盛峰市長ら市幹部は大連現代博物館に赴き、「遼寧省抗日戦争及び反ファシズム戦争勝利 70 周年記念特別展」の大連巡回展を参観した。当該特別展は抗日戦争・反ファシズム戦争勝利 70 周年及び柳条湖事件(9.18 事変)84 周年を記念するものであり、遼寧省党委宣传部等が共同主催し、大連市党委宣传部等の部門が共同で開催を引き受けた。当該特別展には 600 点以上の貴重な文献、写真、実物資料等が展示されており、そのうち日本による中国侵略に関する文献を含む約 110 点の資料については、今回初めて一般公開されることとなった。9 月 18 日に展覧が開始されて以来、社会各界から 4 万 5 千人の人々が当該展覧を参観に訪れた。(1 日付大連日報 1 面)

9 月 31 日：市党委員会常務委員会議開催

31 日、唐軍書記の主宰により市党委員会常務委員会議が開催され、中央弁公庁が発表したレポート「習近平総書記による第二次遼寧訪問調査研究報告」に習近平総書記ら中央の指導者が付した重要指示の精神を学習・伝達し、当該指示の精神を如何にして実行に移していくかについて研究を行った。会議は更に習近平総書記による公共安全政策に関する重要指示の精神、及び李克強総理が大連を視察した際に行った重要講話の精神を学習し、また「集積回路産業の発展に関する実施意見」を審議・採択した。(1 日付大連日報 1 面)

第 15 期市政府第 41 回常務会議開催

先日、肖盛峰市長の主宰により第 15 期市政府第 41 回常務会議が開催され、李克強総理が大連市各地を視察した際に行ったイノベーションや創業の更なる推進等に関する重要講話の精神を学習・伝達し、当該重要講話の精神を如何にして実行に移していくかについて研究を行った。

(2 日付大連日報 2 面)

4 日：肖盛峰市長、農業政策の研究のため金普新区の農業園區を視察

4 日、肖盛峰市長は農業政策に関する調査・研究を行うため金普新区の農業園區を訪れ、同園區の責任者及び研究者らと意見交換を行った。市長が訪れた「大連特殊穀物新品種基地」では、水稻、落花生、大豆、野菜等 369 種類の新品種の研究開発及び栽培、18 種類の原種繁殖、更に宇宙空間にて遺伝子操作が行われた新品種 8 種類の栽培が行われている。

(5 日付大連日報 1 面)

【経済】

5日：肖盛峰市長ら市幹部、国慶節期間中の安全生産政策に関する検査活動を実施

5日、肖盛峰市長ら市幹部は市内の一部企業を訪れ、国慶節期間中の安全生産政策に関する検査活動を実施し、第一線で働く幹部職員らを慰問した。(6日付大連日報1面)

大連市、「大型クルーズ船母港」建設に向けまい進

これまで、大型クルーズ船に乗って海外旅行に行くということは、多くの市民にとってかなり敷居が高いものであった。しかし、今年8月から大型クルーズ船「中華泰山号」が4回に渡り大連港を始発港とする日本へのテスト運航を行い、9月10日に正式出航を実現させたことに伴い、大連港は「クルーズ船が寄航する港」から「クルーズ船始発港」への転換を開始し、「クルーズ船母港」の建設に向け大きな一歩を踏み出した。大連市旅遊局の関係者によれば、中国におけるクルーズ船利用客は2020年には延べ450万人に達する見込み。大連市党委員会・市政府はクルーズ船産業の発展に終始力を入れてきており、「クルーズ船母港」の建設はすでに「大連市海上運輸、港湾の第十一次五ヵ年計画(期間)から2020年までの発展の全体計画」に組み込まれている。

(7日付大連日報1面)

8日：肖盛峰市長、日産自動車株式会社の浦西信哉常務執行取締役と会見

8日、肖盛峰市長は、大連東風日産公司の中核的サプライヤーである優昇汽車部品有限公司の操業開始式典に出席するため大連を訪れた日産自動車株式会社の浦西信哉常務執行取締役一行と会見し、協力関係の強化等の問題について意見を交換した。肖盛峰市長は浦西信哉常務執行取締役一行の大連訪問に歓迎の意を示すとともに、日産自動車及びその関連会社の大連進出がこれまで大連の自動車製造業発展のために果たしてきた貢献を高く評価し、今後同社と更に広範な領域にて協力関係を深めていきたいと述べた。これに対し、浦西信哉常務執行取締役は、同社の大連進出は正しい選択であったと強調し、今後大連での生産規模を更に拡大させ、また更に多くの関連企業を大連に引き入れ、大連の自動車部品を国際市場に進出させていくための後押しをしていきたいと述べた。

(9日付半島晨报A15面)

(注) 10月1日～9日の大連日報、半島晨报、大連晩報、新商報の記事をもとに作成。